

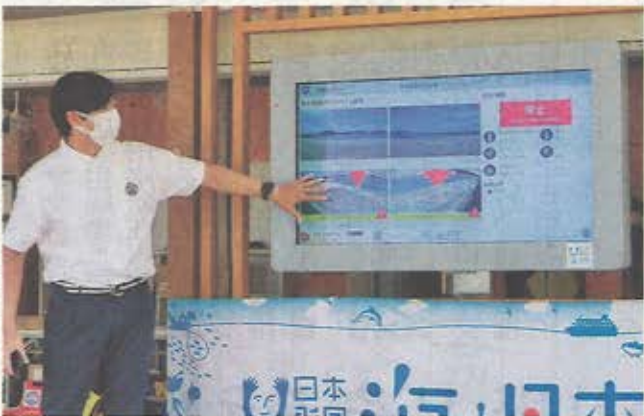
ビーチの安全AI監視

高浜で新システム始動

高浜町の若狭和田ビーチに、離岸流や沖への風を検知して水難事故を防ぐ「海辺のみまもりシステム」が導入され、一日から運用が始まった。リアルタイムで送られる海面の画像や風の状態を人工知能

(AI)が分析し、危険な海域などをライフセーバーや海水浴客らのスマートフォン、腕時計端末、救護所のモニターに通知する。人の目で認識が難しい海の危険を把握することで、海水浴客を安全な所に誘導し、事故が発生しても迅速な救助が可能になる。(鈴村隆)

離岸流や沖への風 検知



離岸流の発生などを表示する救護所のモニター＝1日、高浜町の若狭和田ビーチで

若狭和田ビーチでは風が原因で沖へと流される事故も多いため、風速や風力の測定機も取り付けた。どの程度の風速でアラートを通

知するかは、運用しながら調整していく。

解析した海の状況は海岸にある救護所のモニターに表示し、警戒が必要な場合もライフセーバーや監視員に通知する。一般客もスマホに専用アプリをダウンロードすることでシステムを利用できる。

一日は、同ビーチでシステムの贈呈式があり、管理運用する若狭和田ライフセ

システムは日本ライフセービング協会と日本財団が

中央大の協力で開発し、普及を推進している。同町は

昨年六月に設置の打診を受けた。すでに稼働している

千葉県の御宿中央海水浴場、宮崎県の青島海水浴場に続いて全国三方所目の運用になる。

岸から沖に向かう強い流

れの離岸流については、遊泳区域全体を監視できるよう電柱二本の上部にカメラ

四台を設置した。昨夏に収集を始めた海面画像のデータを解析して学習させたAIにより、発生を自動で検

知。離岸流の発生エリアに人が入った場合は、ライフセーバーや監視員のスマホ

などに知らせる。